

家庭数

さいしゅうごう
最終号

理科便り

平成31(2019)年3月18日

明石小学校長 玉田



3年間読んでいただきありがとうございました

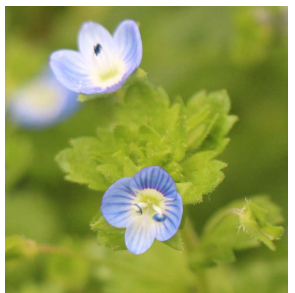
いよいよ^{ほんねんど}本年度も、今週^{こんしゅう}でおわりとなります。お世話(せわ)になったわたしも3月でたいしょくですので、この号(ごう)で最終号です。理科大好(だいす)きのわたしが子どもたちに少(すこ)しでも自然(しぜん)や科学(かがく)、宇宙(うちゅう)などにきょうみをもってほしい。自然の不思議(ふしぎ)やすばらしさをかんじて、自分(じぶん)からはたらきかけてくれたらうれしいなと思(おも)って発行(はっこう)してきて、この号で50号となりました。14年間のわたしの理科便りも最終号です。ちょっとさびしさも(；_；)

子どもから、「校長先生(こうちょうせんせい)、また、クイズだしてね」「理科便りにのっていた花を見つけたよ」「この虫(むし)は、何ですか。理科便りにのせてね」などのうれしい声(こえ)や、保護者(ほごしゃ)から「子どもといっしょにたのしく読んでいます」「この前のクイズがむずかしくてたいへんでしたが、子どもとがんばりました」などとお声をいただき、たのしんでつづけられました。本当(ほんとう)にありがとうございました。こんかいもさいきん見つけたものをしょうかいします。



オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科 ^か越年草^{えつねんそう})

じつは、わたしが6年前に、植物(しょくぶつ)にきょうみをもつきっかけになったのがこの花です。研究所(けんきゅうしょ)につとめていて、お昼休(ひるやす)みに、さんぽ中に海岸(かいがん)ちかくのあき地(ち)の一面(いちめん)に、1cmほどのうす青(るりいろ)かわいい花(はな)が咲(さ)いていて、何(なに)という花(はな)かなとおもってしらべはじめたのでした。それまで、理科好き(りかすき)でしたが、植物(しょくぶつ)は苦手(にがて)分野(ぶんや)でした。今(いま)では、休(やす)みにはカメラ(かめら)かた手にさんぽしながら、雑草(ざっそう)や木(き)、虫(むし)、鳥(とり)をさがしてあるくようになったきっかけをくれただいじな花(はな)です。



オオイヌノフグリは、外国(がいこく)からきて、全国(ぜんこく)に広が(ひろ)っています。今(いま)もさいているように春(はる)はやくから1cmほどのるり色の小さな花(はな)をつけ、日(ひ)があたっているときだけ開(ひら)きます。実(み)はさく果(くだ)といって、じゅくするとさけて種(たね)をばらまきます。この実(み)が2つならんでいるようすを犬(いぬ)の〇〇に見(み)たことからこの名前(な)がついたそうです。日本(にっぽん)にあったイヌノフグリにくらべて、花(はな)も草(くさ)たけも大き(おお)き目(め)なのでこの名(な)がつけられたそうです。



ウグイス (ウグイス科 ^{りゅうちよう}留鳥^{りゅうちよう})

右(みぎ)のように、3月10日にやっと写真(しゃしん)にとれました。まだ若(わか)いウグイスなのか、あまり上手(じょうず)に鳴(な)けませんでした。れんしゅうしてね
ウグイスは、ややみどりがかかったちゃ色(いろ)で、よくうぐいす色(いろ)とおもわれている色(いろ)とはすこしちがっています。



コウノトリ(コウノトリ科) ^か ^{ふゆどり} ^{たびどり} 冬鳥または旅鳥



新聞(しんぶん)で、1月8日に「コウノトリが明石にやってきた」と、大久保町西島(おおくぼちょうにしじま)のため池に1羽(わ)がいるのが、発見(はっけん)されたのでしていました。そこで、1999年にできたコウノトリの郷公園(さとうえん)に、2月17日に行ってきました。コウノトリは大きな鳥で、つばさを広げると2mにもなるそうです。ドジョウやフナ、カエル、ミミズ、バッタなどの生きた小動物(しょうどうぶつ)を食(た)べます。だから、ちかくの田んぼには、コウノトリのえさのために冬でも水がはってありました。コウノトリが、日本で野生(やせい)に生息(せいそく)していたのは、1971年にさいごの1羽(わ)がなくなっていなくなりました。しかし、兵庫県(ひょうごけん)は1965年から人がケージの中でそだてる人工飼育(じんこうしいく)にとりこんでいたので、日本中やロシアなどからもおくってもらって、どんどん数(かず)をふやすことができました。2005年から野生復帰計画(やせいふっきけいかく)がはじまって、げんざいは101羽にふえています。日本のあちこちにとんでいって、中には、韓国(かんこく)まで行ったのがいます。この日、上の写真のように巣で卵(たまご)をだいているつがいがありました。ちょうどオスとメスがだくのを入れかわっているところを写真にとりました。また明石にやってきてほしいですね。



ドジョウやフナ、カエル、ミミズ、バッタなどの生きた小動物(しょうどうぶつ)を食(た)べます。だから、ちかくの田んぼには、コウノトリのえさのために冬でも水がはってありました。コウノトリが、日本で野生(やせい)に生息(せいそく)していたのは、1971年にさいごの1羽(わ)がなくなっていなくなりました。しかし、兵庫県(ひょうごけん)は1965年から人がケージの中でそだてる人工飼育(じんこうしいく)にとりこんでいたので、日本中やロシアなどからもおくってもらって、どんどん数(かず)をふやすことができました。2005年から野生復帰計画(やせいふっきけいかく)がはじまって、げんざいは101羽にふえています。日本のあちこちにとんでいって、中には、韓国(かんこく)まで行ったのがいます。この日、上の写真のように巣で卵(たまご)をだいているつがいがありました。ちょうどオスとメスがだくのを入れかわっているところを写真にとりました。また明石にやってきてほしいですね。

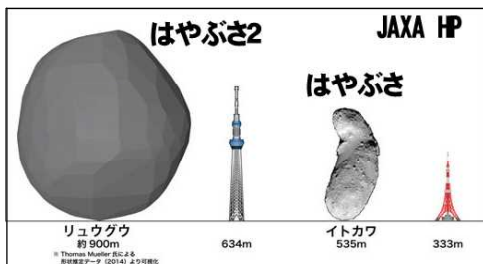
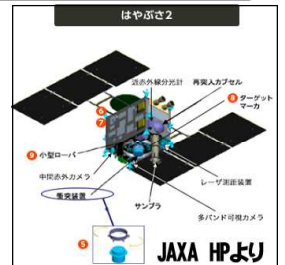


すごいぞ はやぶさ2

今日、大変うれしいことがありました。朝、1年生と3年生の姉妹より、自作(じさく)の理科便りクイズをいただきました。がんばって100点めざします。

はやぶさ2 リゅうぐう着地成功

「はやぶさ2」は、小惑星(しょうわくせい)サンプルリターン(土をもちかえる)をめざします。「はやぶさ」のけいけんを生かして、「小惑星リュウグウ」から、惑星(わくせい)の起源(きげん)だけでなく地球(ちきゅう)の海(うみ)の水の起源や生命(いのち)の原材料(げんざいりょう)をも見つけようとするミッションになります。リュウグウは、太陽系(たいようけい)が生まれた46おく年前の水や有機物(ゆうきぶつ いのちのもと)が、今でものこされているとかがえられています。



「はやぶさ2」は2014年12月3日に打ち上げられました。2018年6月27日に小惑星リュウグウに到着(とうちゃく)しました。8か月ごの2019年2月21日におりはじめ、2月22日7時29分に、ついにリュウグウの「たまたまばこ」と名づけられたばしょへのタッチダウン(ちゃくりく)を成功(せいこう)させました。平らなばしょが見つからず、大きさ6mの「はやぶさ2」が、たったの6mほどのしかない場所(ばしょ)をえらんでみごとにおりに成功したそうです。ぶじにかえってきてね。みんなまってるよ。

「はやぶさ2」は2014年12月3日に打ち上げられました。2018年6月27日に小惑星リュウグウに到着(とうちゃく)しました。8か月ごの2019年2月21日におりはじめ、2月22日7時29分に、ついにリュウグウの「たまたまばこ」と名づけられたばしょへのタッチダウン(ちゃくりく)を成功(せいこう)させました。平らなばしょが見つからず、大きさ6mの「はやぶさ2」が、たったの6mほどのしかない場所(ばしょ)をえらんでみごとにおりに成功したそうです。ぶじにかえってきてね。みんなまってるよ。

*最終号もたのしんでお読みいただければさいわいです。ありがとうございました。

